

ざっくり
黙示録

10

黙示録17～18章

大患難時代

大バビロン



【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 世界宗教・大バビロン 17章

II. 世界都市・大バビロン 18章

III. まとめと適用

コロナ禍の今、

人類への神の警告を受け取ろう



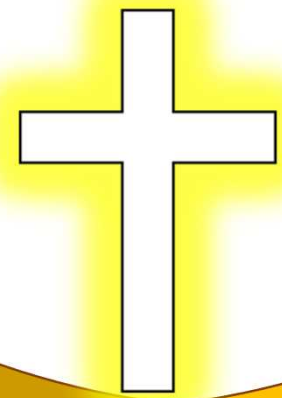
0. 終末のおさらい



【聖書の世界観には、初めがあり、終わりがある】

天地創造
人類の墮罪

キリストの
十字架の
死と復活



これから起きること

今の時代(教会時代)

～ゴールは、世界の回復。理想世界の実現～

【神の計画・これから起きること】

携挙は、いつ起こるか分からない

① 世界大戦
(ホロコースト)
1914~

地震の激増

② イスラエル建国
(不信仰なままの帰還)
1948

③ エルサレム支配
(旧市街占領)
1967

(イスラエルの
表面的な平和と繁栄
世界中で募る敵対心)

④ 北方からの侵略

⑤ 世界統治機構

⑥ 反キリストと
イスラエルの契約

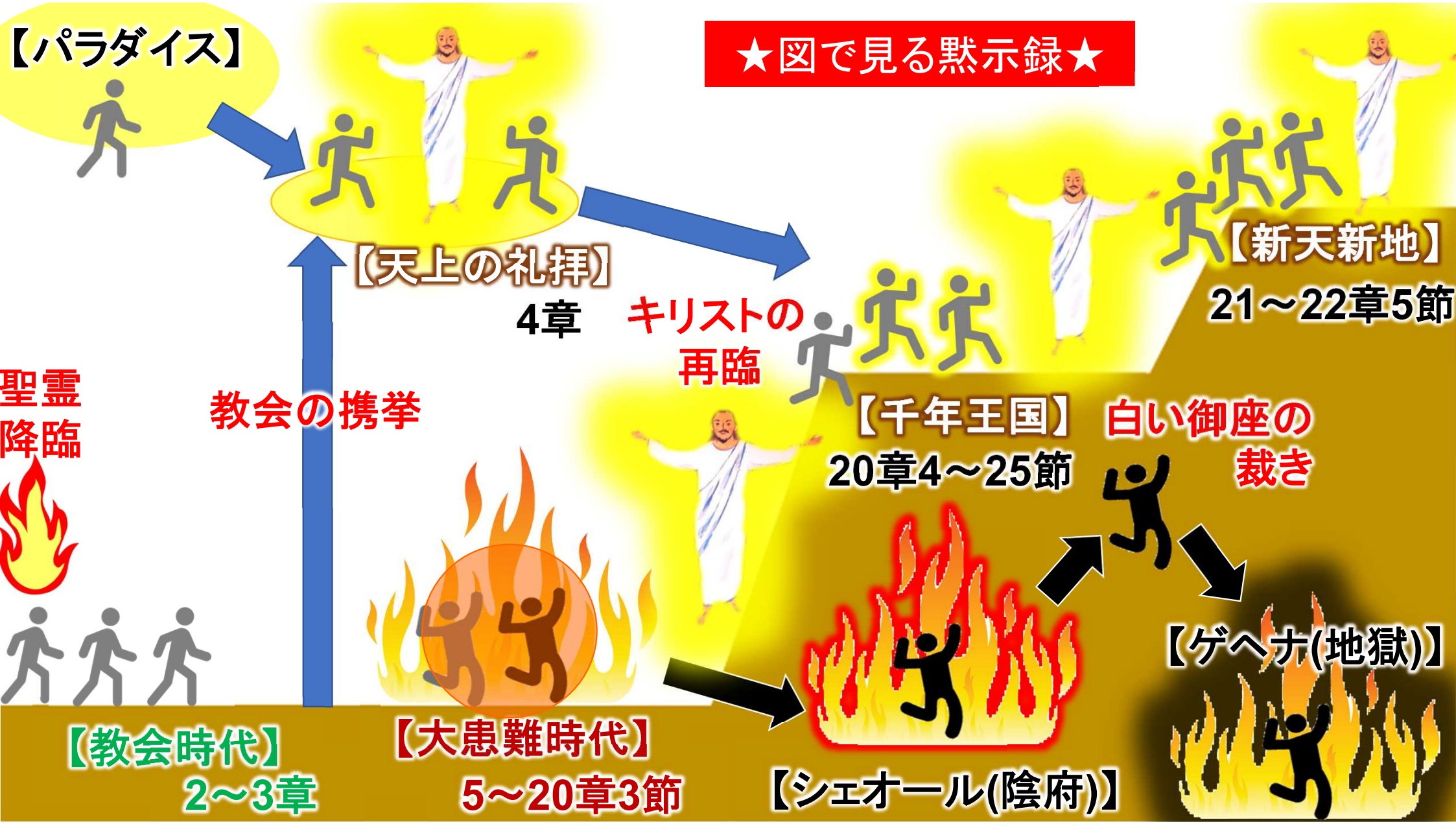
大患難時代
(7年間の裁き)

キリストの再臨
イスラエルの回心

千年王国



★図で見る黙示録★



黙示録アウトライン

序文	栄光のキリストとの遭遇	1章
教会時代(現在)	教会への励ましと警告	2～3章
天上の礼拝	教会の携挙～天上の礼拝	4～5章
大艱難時代	大艱難時代に起こること キリストの再臨	6章～20章3節
千年王国	千年王国の様子 白い御座の裁き(最終的裁き)	20章4節～25節
新天新地	地に降る天のエルサレム 永遠の神の王国	21章1節～22章5節
結論	イエスの宣言と招き 警告と約束	22章6～21節

大患難時代

大患難前	天上の礼拝	教会の携挙後の天の様子	4:1~5:14
大患難時代	前半(3年半)	7つの封印の裁き	6:1~17
		144,000人のユダヤ人と大宣教	7:1~17
		7つのラツパの裁き	8:1~9:21
	中間期	第7のラツパの預言・小さな巻物 第三神殿・二人の証人の死と復活 大患難時代のイスラエル 海からの獣・地からの獣 神の勝利の7つの宣言	10:1~11 11:1~13 12:1~18 13:1~18 14:1~20
後半(3年半)	天に現れるしるし 7つの鉢の裁き 大バビロン	15:1~10 16:1~21 17:1~18:24	
メシア再臨	千年王国	再臨	19:1~20:3

【大患難時代とは？】

- 今の「恵みの時代」の最後の7年間。
- 聖書預言では、「**主の日**」とも呼ばれる。
- かつてない大災厄が地上を襲う。

【大患難時代の目的】

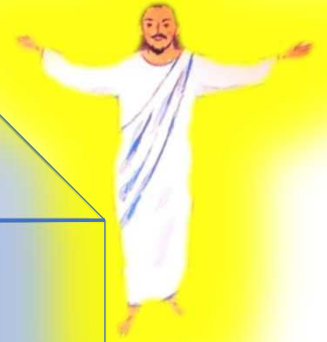
- ① 地上から悪と悪人を取り除くため。
- ② 全世界規模の霊的覚醒を起こすため。
- ③ イスラエルを民族的回心に導くため。

【大艱難時代の始まり】

- 教会の携挙の後。（その何年後かは分からない）
- **反キリスト**がイスラエルと7年間の契約を結ぶ時。
→ 世界の支配者となる、サタンの化身。



天上の礼拝



大患難時代

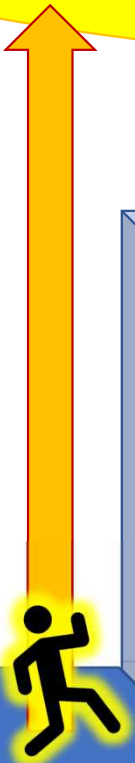


14万4千人による世界宣教

ユダヤ人大迫害

御国の時代

教会時代



携拳

封印の
裁き

ラッパの
裁き

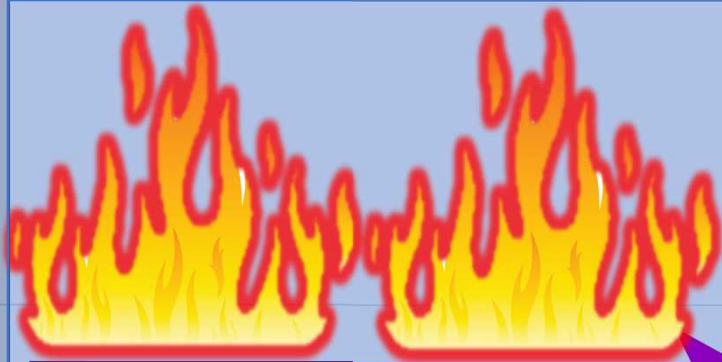
鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

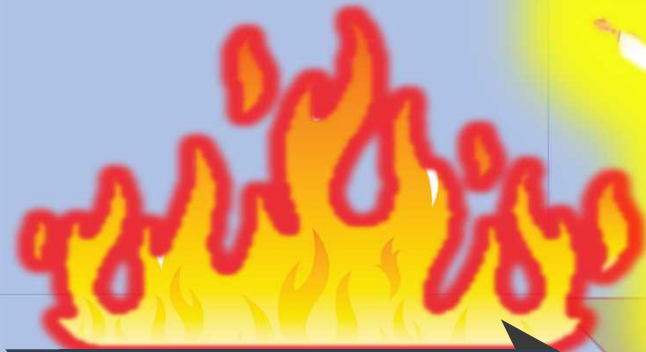
天上の礼拝



大患難時代



14万4千人による世界宣教



ユダヤ人大迫害



御日の時代

教会時代

携拳

封印の
裁き

ラッパの
裁き

鉢の裁き

メシア再臨
イスラエルの
民族的回心

天上の礼拝

世界宣教・大リバイバル

14万4千人のユダヤ人 2人の証人

大迫害・多数の殉教者

封印の裁き

ラツパの裁き

鉢の裁き

・教会の携挙

イスラエルの契約

- ・自然界の異変
- ・聖徒の迫害
- ・世界大戦・大飢饉
- ・反キリストの世界征服
- ・反キリストと

- ・悪霊による死
- ・悪霊による苦痛
- ・1 / 3の宇宙の滅び
- ・1 / 3の川・泉の滅び
- ・1 / 3の海の滅び
- ・1 / 3の土地の滅び

- ・神殿を汚す
- ・反キリストが豹変し、
- ・二人の証人の死と復活
- ・イスラエルへの大迫害
- ・ボツラへ逃れる
- ・反キリストの死と復活

- ・悪性の腫れ物
- ・血に染まる海
- ・血に染まる川と泉
- ・太陽に焦がされる
- ・暗黒がバビロンを包む
- ・干上がるユーフラテス
- ・招集される悪の軍隊

・メシアの再臨

・メシアの再臨

大バビロン(世界宗教の聖地)

大バビロン(世界王国の首都)

1. 世界宗教
大バビロン

黙示録17章



【大淫婦・】 黙17:1～2

また、七つの鉢を持つ七人の御使いの一人が来て、私に語りかけた。「ここに来なさい。大水の上に座している大淫婦*に対するさばきを見せましょう。

地の王たちは、この女と淫らなこと*を行い、地に住む人々は、この女の淫行のぶどう酒*に酔いました。」

* 偽宗教、背教の教会、究極の偶像礼拝者。

* 淫行 ... 霊的姦淫。真の神を信じると告白しながら、偶像を拝むこと。

■ 17章から、少し時間を遡っている。

➡「鉢の裁き」が下される前、大患難時代前半。



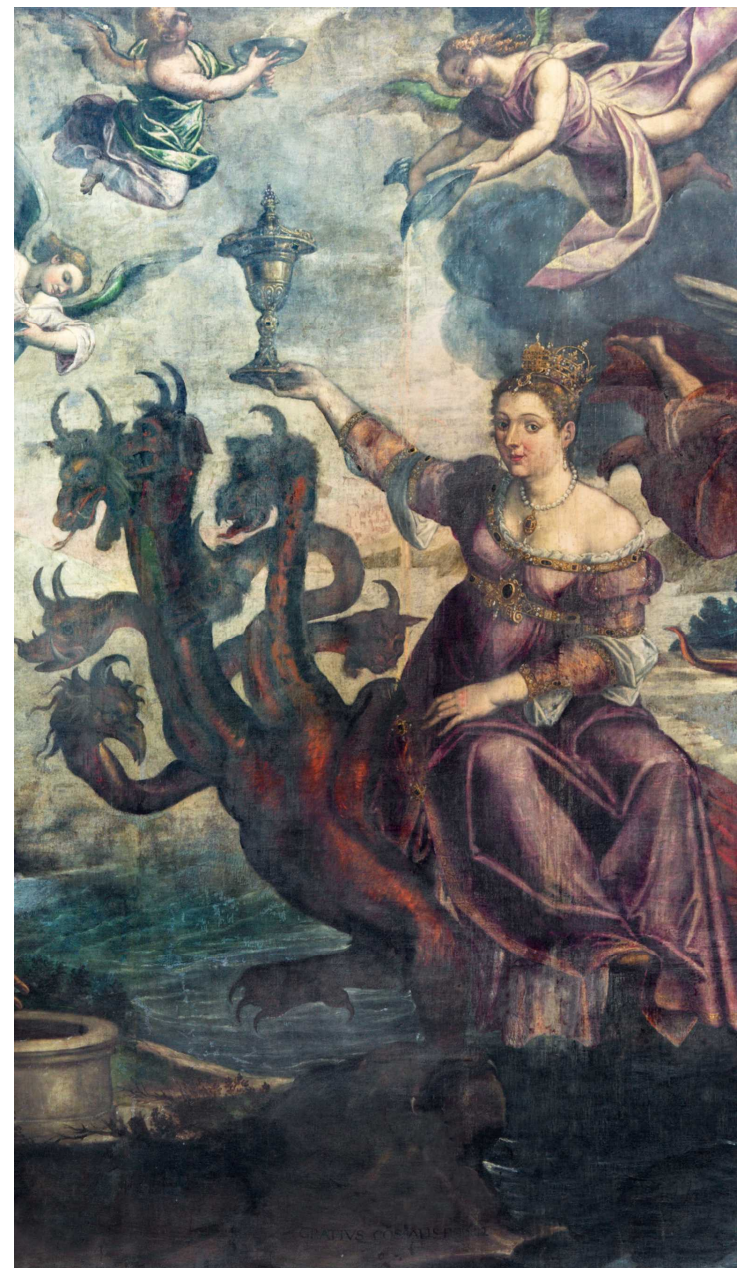
【大淫婦・背信の教会の偽大祭司】 黙17:3

それから、御使いは私を御霊によって荒野へ連れて行った。私は、一人の女*が緋色の獣*に乗っているのを見た。その獣は神を冒瀆する名で満ちていて、七つの頭と十本の角を持っていた。

* 大淫婦、背教の教会。世界宗教。

* 緋色の獣 ➡ 反キリスト(黙13:1)

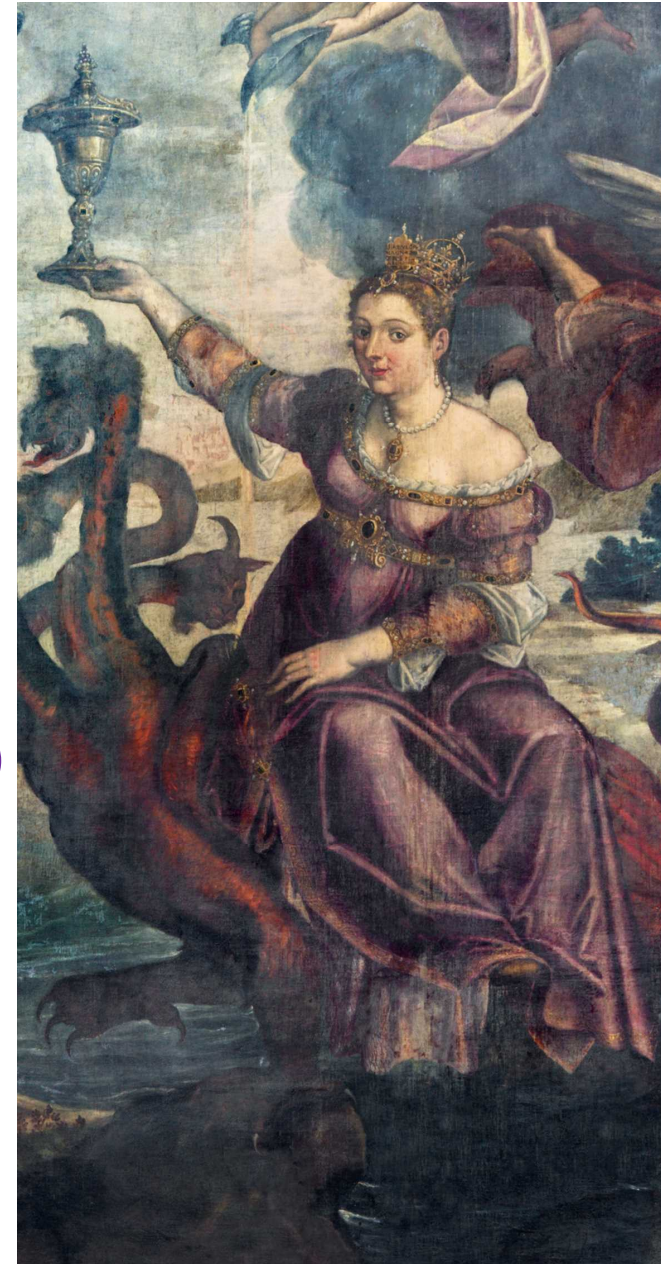
■ 大患難時代の前半3年半は、
背教の教会・世界宗教が、反キリストをも支配している。反キリストの権威は、限定的。



【信仰者を迫害する大淫婦】 黙17:4～6

その女は紫と緋色の衣をまとい、金と宝石と真珠で身を飾り、忌まわしいものと、自らの淫行の汚れで満ちた金の杯を手にとっていた。その額には、意味の秘められた名、「大バビロン*、淫婦たちと地上の忌まわしいものの母」という名が記されていた。私は、この女が聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの女を見て、非常に驚いた。

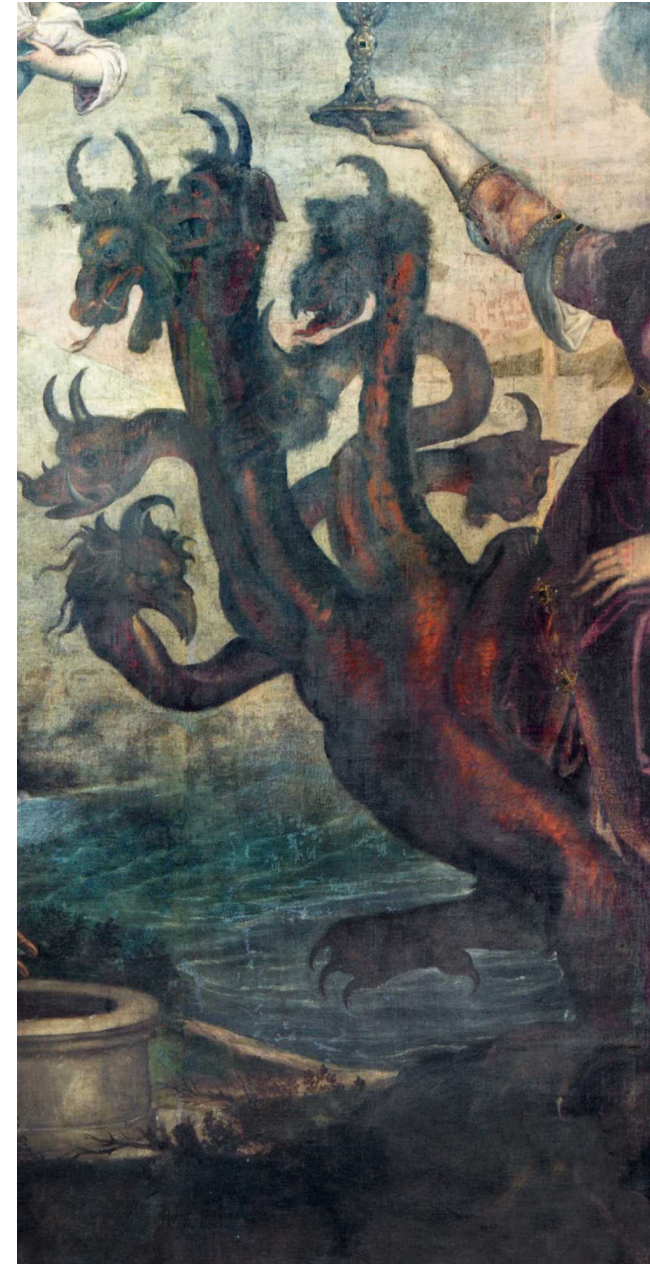
- * 大バビロン ...偽宗教の発祥の地がバビロン(創11章)その究極の完成形が大バビロン
- * 大淫婦(背教の教会)は、外面的には豪華絢爛、荘厳で非常に魅力的。巨大な富を欲しいままにし、一方で、不品行と汚れに満ちている。
- * 世界宗教は、信仰者たちを迫害し、多くの命を奪う。



【反キリストの死と復活と滅び】 黙17:7~8

すると、御使いは私に言った。「なぜ驚くのですか。私は、この女の秘められた意味と、この女を乗せている、七つの頭と十本の角を持つ獣の秘められた意味を、あなたに話しましょう。あなたが見た獣は、昔はいたが、今はいません。やがて底知れぬ所から上って来ますが、滅びることになります。*地に住む者たちで、世界の基が据えられたときからいのちの書*に名が書き記されていない者たちは、その獣が昔はいたが今はおらず、やがて現れるのを見て驚く*でしょう。

- * 反キリストは、大患難時代の中に殺され、復活する。再臨の主イエスによって裁かれ、陰府に落とされる。
- * 救われる者の名が記されている、子羊のいのちの書。
- * 不信仰者達は、反キリストの復活に驚き、ひれ伏す。



【七人の王】 黙17:9～10

ここに、知恵のある考え方が必要です。七つの頭とは、この女が座している七つの山で、それは七人の王たちのことです。五人*はすでに倒れましたが、一人*は今いて、もう一人*はまだ来ていません。彼が来れば、しばらくとどまるはずです。

* 七つの頭 = 七つの山 = 七人の王

* 5人の王 ➡ エジプト、アッシリア、バビロニア、ペルシャ、ギリシャ の王

* 一人 ➡ ローマの王

* もう一人 ➡ 反キリスト(3年半、世界を支配)

※フルクテンバウム節... 第四帝国の7段階



【十人の王たち】 黙17:11~12

また、昔はいたが今はいないあの獣は八番目の王ですが、七人のうちの一人でもあり、滅びることになります。あなたが見た十本の角は十人の王たちです。彼らはまだ王権を受けていませんが、獣とともに、一時だけ王としての権威を受けます。

- * 終末に起こる世界統一政府は、間もなく10の王によって分割され支配される。かれらの支配一時だけ。
- * 反キリストは、10の王のうちの7番目の王として現れる。10の王のうち3人を倒して、8番目となる。
- 反キリストは、世の王の系譜を継いでいるが、同時にすべての王たちを超越した存在である。



【十人の王たちの最期】 黙17:13～14

これらの王たちは一つ思いとなり、自分たちの力と権威をその獣に委ねます。*彼らは子羊に戦いを挑みますが、子羊は彼らに打ち勝ちます。子羊は主の主、王の王だからです。子羊とともにいる者たちは、召されて選ばれた忠実な者たちです。」

* 反キリストは、10人の内の3人の王を打ち倒し、世界の支配者となる。

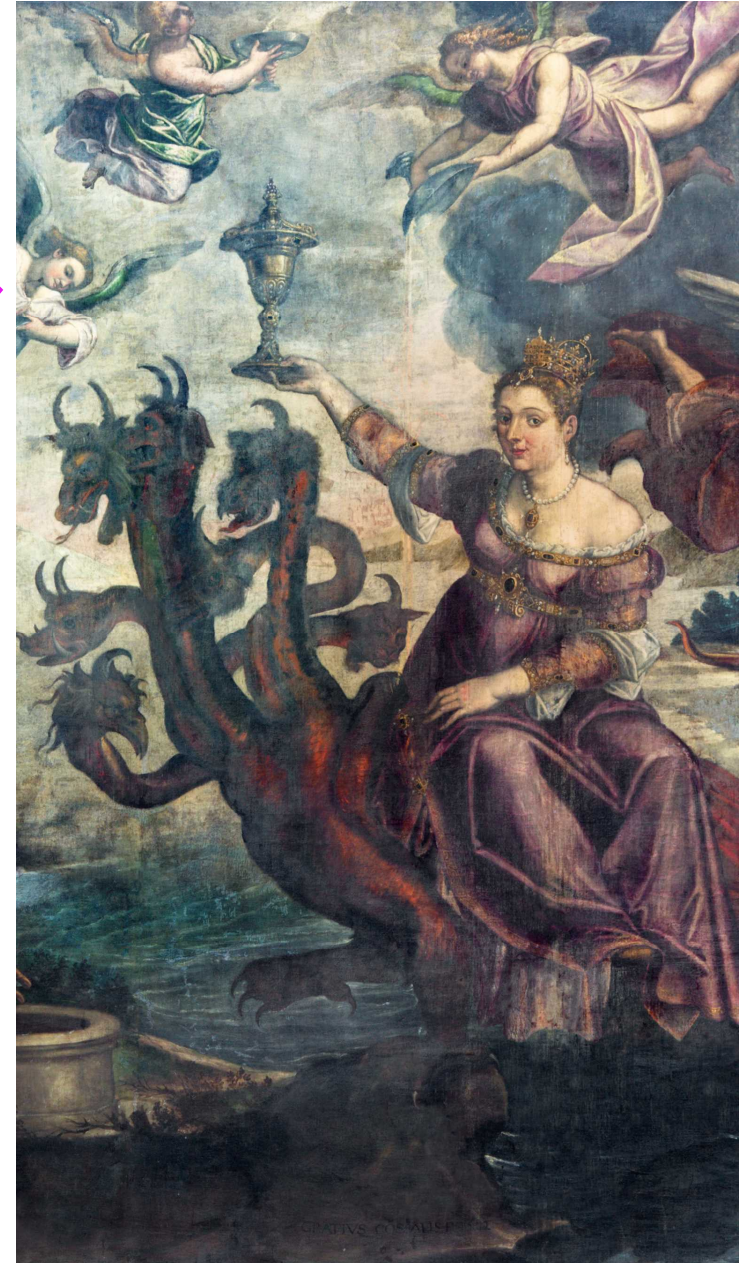
* 再臨の主イエスが、最終戦争(ハルマゲドン)において、反キリストの配下の王たちを滅ぼす。



【大バビロン・背教の教会の末路】 黙17:15～16

また、御使いは私に言った。「あなたが見た水、淫婦が座しているところは、もろもろの民族、群衆、国民、言語です。あなたが見た十本の角と獣は、やがて淫婦を憎み、はぎ取って裸にし、その肉を食らって火で焼き尽くすことになります。」

- * 大患難時代前半、背教の教会・世界宗教がまず全世界を支配する。
- * 大患難時代の後半に、反キリストが大淫婦に取って代わり、世界の王・支配者となる。



【新しい歌】 黙17:17～18

それは、神のことばが成る時まで、神はみこころが実現するように王たちの心を動かし、彼らが一つ思いとなって、自分たちの支配権を獣に委ねるようにされたからです。あなたが見たあの女は、地の王たちを支配する大きな都のことです。」

* 世の終わりの反逆の王たちや反キリストすら、神の御手の内にある。

➡ 十人の残り7人の王は、反キリストに服する。

* 女 = 大淫婦 = 背教の世界統一教会

➡ その本拠地が、大バビロンである。

大バビロン = 世界教会と呼ばれる。





II. 世界都市 大バビロン

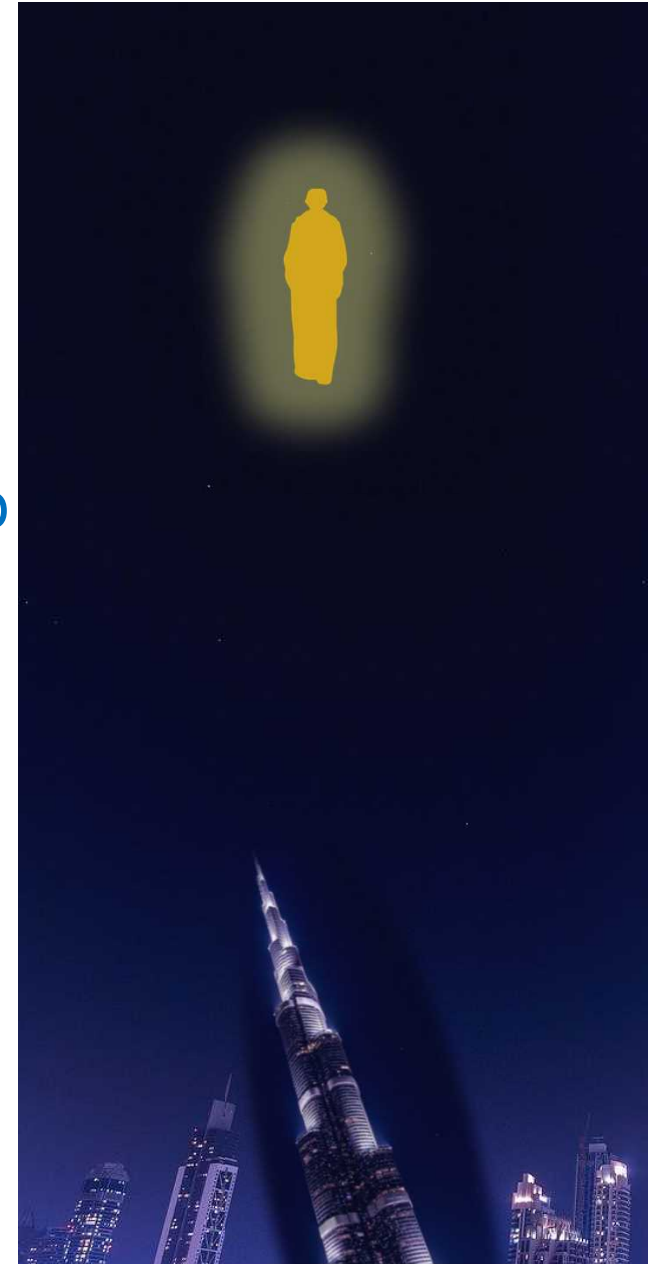
黙示録18章

【大バビロンの崩壊の宣言】 黙18:1～3

その後、私は、もう一人の御使いが、大きな権威を持って天から下って来るのを見た。地はその栄光によって照らされた。彼は力強い声で叫んだ。「倒れた。大バビロンは倒れた。それは、悪霊の住みか、あらゆる汚れた霊の巣窟、あらゆる汚れた鳥の巣窟、あらゆる汚れた憎むべき獣の巣窟となった。すべての国々の民は、御怒りを招く彼女の淫行のぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と淫らなことを行い、地の商人たちは、彼女の過度のぜいたくによって富を得たからだ。

* 神の栄光を帯び、重大な任務に遣わされた天使。

■ 大患難時代の最期、大バビロン崩壊の時へ!!

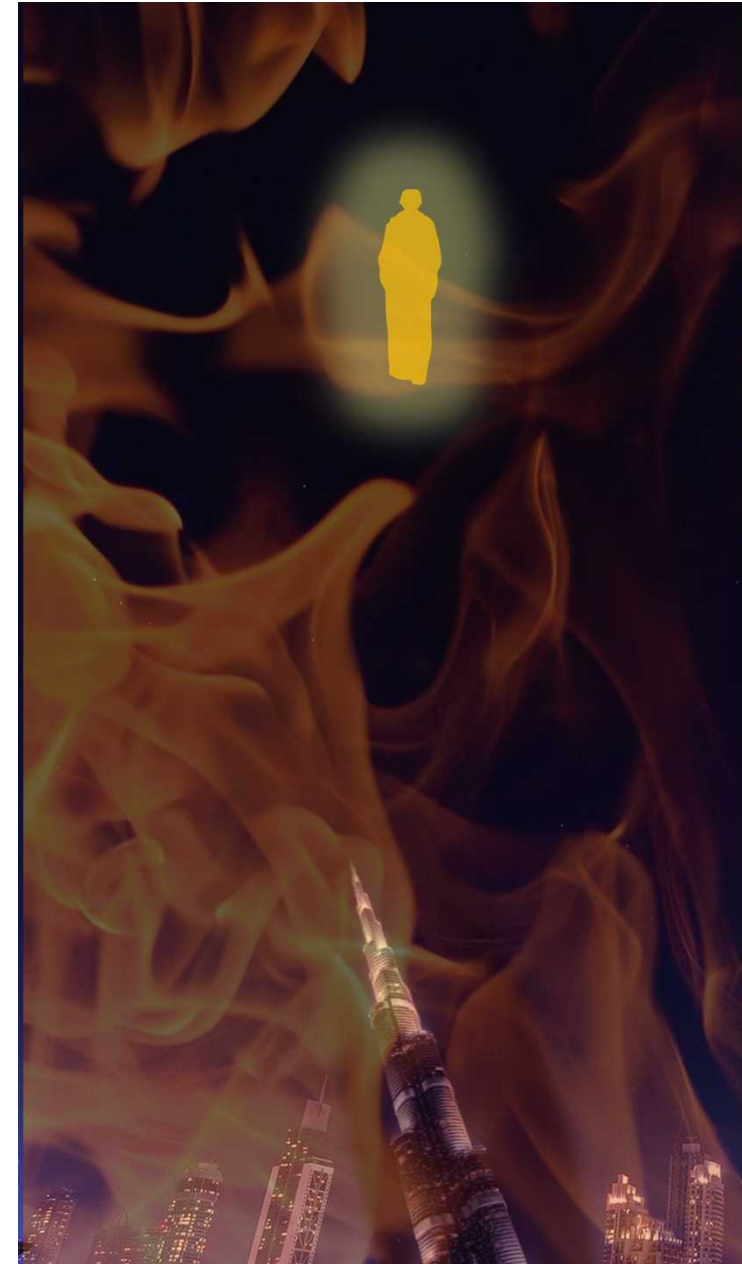


【大バビロンへの裁き】 黙18:4～6

それから私は、天からもう一つの声がこう言うのを聞いた。「わたしの民は、この女の罪に関わらないように、その災害に巻き込まれないように、彼女のところから出て行きなさい。彼女の罪は積み重なって天に達し、*神は彼女の不正を覚えておられるからです。あなたがたは、彼女が支払ったとおりに彼女に報いなさい。彼女の行いに応じて倍にして返しなさい。*彼女が混ぜ合わせた杯の中に、彼女のために倍のものを混ぜ合わせなさい。」

* バベルの塔のイメージが重なる。

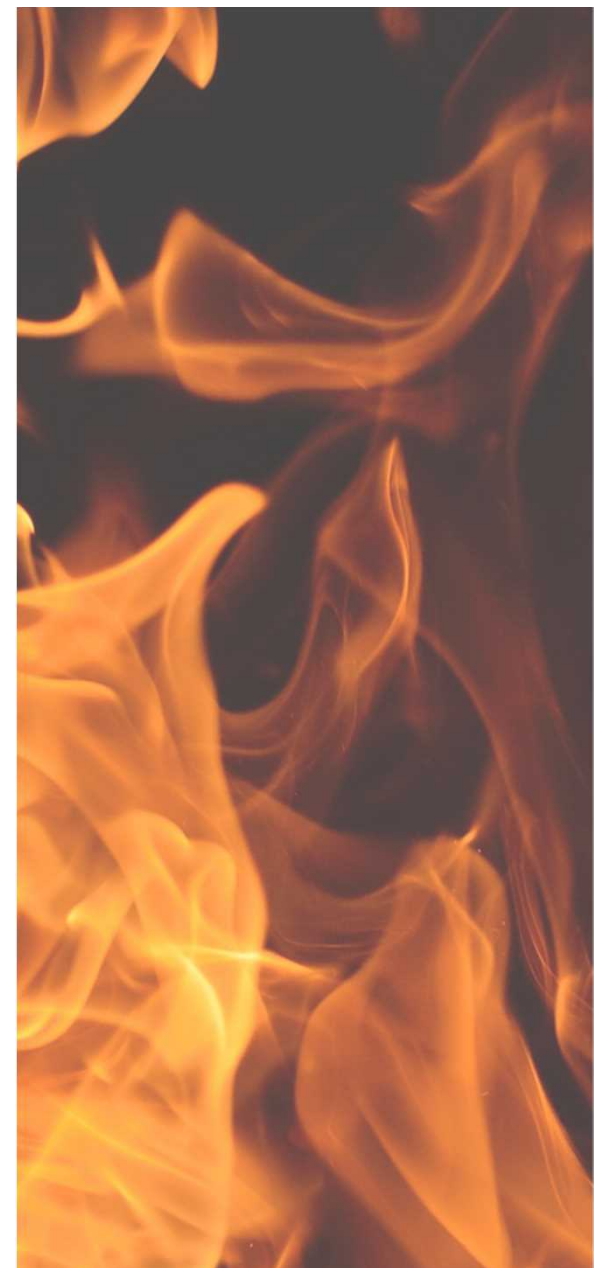
* 律法では、不法に対する賠償は二倍(出22:4)



【大バビロンの裁きと滅び】 黙18:7～8

彼女が自分を誇り、ぜいたくにふけた分だけ、苦しみと悲しみを彼女に与えなさい。彼女は心の中で『私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない』と言っているからです。これらのことのため、一日のうちに、様々な災害、死病と悲しみと飢えが彼女を襲います。そして、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は、力ある方なのです。」

- 王たちの上に君臨した大バビロンは、
わづか一日の内に、主に裁かれ、滅ぼし尽くされる。



【大バビロンの滅びを嘆く人々①】 黙18:9～13

彼女と淫らなことを行い、ぜいたくをした地の王たちは、彼女が焼かれる煙を見ると、彼女のことで泣いて胸を打ちたたく。彼らは遠く離れて立ち、彼女の苦しみに恐れをなして、「わざわざいだ、わざわざいだ、大きな都、力強い都バビロンよ。あなたのさばきは一瞬にしてなされた」と言う。

また、地の商人たちは彼女のことで泣き悲しむ。彼らの商品を買う者が、もはやだれもいないからである。

商品とは、金、銀、宝石、真珠、亜麻布、紫布、絹、緋色の布、あらゆる香木、あらゆる象牙細工、高価な木材や青銅や鉄や大理石で造ったあらゆる器具、シナモン、香料、香、香油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、小麦粉、小麦、家畜、羊、馬、馬車、奴隷、それに人のいのちである。



【大バビロンの滅びを嘆く人々②】 黙18:14～19

「おまえの心が欲しがる果物は、おまえから遠ざかり、ぜいたくな物や華やかな物は、すべておまえから消え失せて、もはや決して見出すことはできない。」これらの物を商って彼女から富を得ていた商人たちは、彼女の苦しみに恐れをなして、遠く離れて立ち、泣き悲しんで言う。

「わざわざいだ、わざわざいだ、大きな都よ。亜麻布、紫布、緋色の布をまとい、金、宝石、真珠で身を飾っていたが、あれほどの富が、一瞬にして荒廃に帰ってしまった。」

また、すべての船長、その場所を航海するすべての者たち、水夫たち、海で働く者たちもみな、遠く離れて立ち、彼女が焼かれる煙を見て、「これほどの大きな都がほかにあつたらうか」と叫んだ。彼らは頭にちりをかぶり、泣き悲しんで叫んだ。「わざわざいだ、わざわざいだ、大きな都よ。海に船を持つ者たちはみな、ここでその繁栄から富を得ていたのに、その都が一瞬にして荒れ果ててしまうとは。」



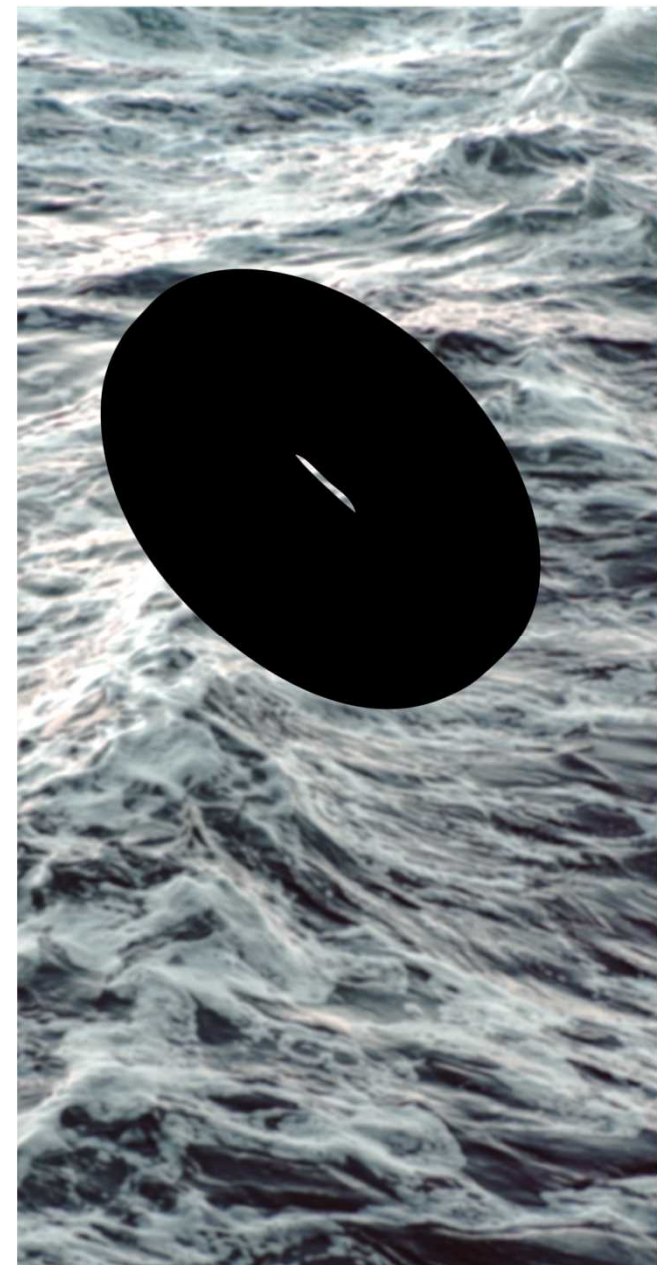
【天での喜び】 黙18:20～21

「天よ、この都のことで喜べ。聖徒たちも使徒たちも預言者たちも喜べ。神があなたがたのために、この都をさばかれたのだから。」

また、一人の強い御使いが、大きいひき臼のような石を取り上げ、海に投げ込んで言った。

「大きな都バビロンは、このように荒々しく投げ捨てられ、もはや決して見出されることはない。」


- 地上での嘆きとは対照的に、
天では、大バビロンの滅びが喜ばれる。



【大バビロンへの厳正な裁きの宣言】 黙18:22~24

豎琴を弾く者たち、歌を歌う者たち、笛を吹く者たち、ラッパを鳴らす者たちの奏でる音が、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。あらゆる技術を持つ職人たちも、おまえのうちで、もはや決して見出されることはない。石臼の音も、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。

ともしびの光も、おまえのうちで、もはや決して輝くことはない。花婿と花嫁の声も、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。というのは、おまえの商人たちが地上で権力を握り、おまえの魔術によってすべての国々の民が惑わされ、この都の中に、預言者たちや聖徒たちの血、また地上で屠られたすべての人々の血が見出されたからである。」



Ⅲ. まとめと適用

コロナ禍の今、
人類への神の警告を聴きとろう

【大バビロンのまとめ】

■ 大バビロンは、大淫婦として描かれる。

背教の教会であり、世界を偶像礼拝に引き込む世界宗教である。

■ 大バビロンは、世の終わりに建設される、史上最も繁栄する都市。

大患難時代の前半は、世界統一宗教の総本山となり、

後半には、反キリストの王国の首都として政治、経済の中心地となる。

■ 栄華を極めるが、再臨の主イエスによって裁かれ、一日で滅びる。

【大バビロンと人類の都市文明】

- 最初の都市は、殺人者カインの子孫から誕生し、文明が生まれた。
- 大洪水後、人類が神に反逆し、バビロンに、バベルの塔を建設。

- 都市は人類最大の発明と言われる。
都市から多くの文化、文明が生まれてきた。

- 一方で、有史以来、すべての都市は、滅びに至ってきた。
世界中に古代都市の廃墟が残る。
富の収奪、性の乱れ、戦争、虐殺、環境破壊...。
暴走した人類の欲望が、自らの破滅を招いてきた。

➡そして、大バビロンにおいて、人類の都市は最終的破滅を迎える。

【コロナ禍を通して、神の警告を受け取ろう】

■ コロナ禍は、世界中の都市に大きな打撃を与えている。

都市機能の麻痺、利便性の喪失、経済の衰退、深まる人々の孤独…。

■ 都市が抱える大きな闇がある。世界中で感染の温床となった夜の街、性の乱れ、幼児虐待、麻薬、貧困、過重労働、汚職、環境破壊…。

例)アメリカ。都市中心、リベラルのエリート中心の民主党。

農村部中心、保守、福音派も根強い共和党。

■ 都市の闇は、人間自身を作り出すものに他ならない。

人は罪人だから罪を犯す。人が集うほど、罪は増大し、増殖する。

■ 世の大きな流れは、より大きな力、大きな都市を求めている。

➡そこに厳しく警鐘を鳴らしているのが、コロナ禍ではないだろうか？

【見上げるべきは、主の御顔】

■ 預言者達は荒野で神の声を聞き、都の人々に警告を告げた。

■ 人は、世を離れ、ひとりとなるとき、主に向き合い、主の声を聞く。

■ 人の世から、視線を離し、主の御声に心を傾けよう。

人が造り上げたすべては、いつか必ず崩れ去る。

永遠に失われることのない、真に価値あるものに、思いを寄せよう。

■ 世の終わり、主の再臨の時は近い。コロナ禍で加速する、富と権力の集中は、世界政府、反キリストへの道ぞなえか？！

■ すべての信者が携挙され、神の裁き・大患難時代はやってくる。

主イエスは近い、救いは近い。

福音を信じ、主の御顔を仰ぎ見て、唯一の主だけを讃えていこう。

「天のお父さま。わたしは、御子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

人の世のはかない価値観に、自分の思いに、心囚われてしまう、
私がいいます。

どうか、永遠に変わらない主の約束と命にこそ、すべての信頼を
置くことができますように。

混沌の深まる時代に、常に平安をもって歩ませてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」